
ドッキリ～

留龍隆

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

ドッキリ〜

【コード】

N7851B

【作者名】

留龍隆

【あらすじ】

ドッキリ。オタクにドッキリ。家族四人の心が寒々としてくることもない物語。ちょっとした願望。そしてそれが粉碎。

ドッキリ～

(前書き)

ドッキリ～

「父さんはこの日のために生きてきたようなもんだ。おめでとう！俺！目標つっぴか夢達成だよ！！」

父さんはなんか知らんがめちやくちや喜んでる。俺ら二人が無事中学を卒業、高校に進学できる事がそんなに嬉しいか？俺はまあ、嬉しいといやあ嬉しいが。だが父さんのこの喜びようはおかしい。常軌を逸している。スキップすんなよ。見苦しいよ。春休みからそんなもの見たくないんだよ。

「なにがそんなに嬉しいの、お父さん？」

妹よ、おまえは優しいね。俺めっちゃスルーしたのに。とゆうか君、俺と同じ高校行くよね。なんだ？父さんは二人そろって同じ高校行ってくれるのがそんなに嬉しいのか？

「よくぞ訊いてくれた我が娘よ！！おまえはホント良く育ってくれたよ。この年頃の娘つてのは父親と話さないと色々聞くけどおまえは優しい子に育ってくれたなあ。母さんにそっくしだよ。なあ母さん？」

母さん、何笑ってんの？父さんがなに言う気が知ってる顔だよそれ。妹よ、無邪気な顔をして大丈夫か？なんか嵐の前の静けさが……もしかしたらあれか、父さんオタク趣味が災いしてPCのやりすぎでいかれたか？

「さあ、君達に発表しよう！！じゃじゃーん、おめでとう十六歳、一足早いけど誕生日おめでとう」

何それ、結局長々引き伸ばしてよくあるパターン？「最近みんな冷たいなあ……」とか言ってる奴がみんなの様子がおかしいのを調べていたら実は誕生日パーティをサプライズでやろうとしてました、なアレか？俺も妹も覚えてるよ自分の誕生日。双子で同じ日四月一日だろ？まだ今日三月十七日じゃん。卒業から十日しか経ってないし。

「それだけなの、お父さん？」
妹よ、全くだ。あの父さんのいやらしい顔は絶対にまだ何か隠してる顔だ。

「それだけ？NO！！これは単なる伏線にすぎん！！すういゝとしくすていゝんに相応しい新事実を発表するのさ！！！！」

何それ。知るか。もう部屋戻っていい？

「実は！！！！お前達二人は血の繋がらない双子でした〜ドッキリ！！！！」

俺ら二人の人生かけてドッキリやんなよクソ親父。

「兄さん……これって」

妹よ、普段絶対に「兄」という称号で俺を呼ばないおまえがまさかそう呼んでくるとはね。なんだ、ホントにおまえは優しいな。あの父さんのためにちよつとした空気つくろうとしてあげてるのか？

「しかも息子よ、義妹だぞ！！！！最高だろおまえ。俺はオタク趣味に染まってからずっとこの計画を練ってきた……オタクの妄想にありがちな『義妹』の設定。実現させる為に俺は頑張った。頑張って働いて金を貯め、二人育てられるようにして。そして十六になって多感な時期に、この事実を暴露してやろうと！！！！」

くたばれよ父さん。今なら台所に行つて包丁取つてくれるから。

「幼い日から一緒に居たおまえらは、互いにかなり好感を持っているはずだろクツクツク。さあお前達、俺と母さんは今から海外旅行に出かけるから。この家の中でたった二人で暮らすがいい！！！！何があつても父さんは許すよ、はっはっは」

殴りてえ。

「あなた。一つ、わたしからもいいかしら？」

「言ってみなさい母さん！あ、でも旅行先を変えるのはナシね」

「実は三年前にこの子ら二人に義兄妹なのは伝えてあるのよ」

固まったな父さん。その通り、俺も妹もとつくにそのことは知ってる。

「まあ、三年かけたあなたへのわたしのドッキリよ。十二年隠した

のはまだ色々わからないだろうから、と思つてのことだったけど、ちよつと胸が痛んだわね。この子達もちゃんと理解してくれたのは助かったけど」

「そんな……これから息子と娘の恋愛模様が見られると思つたのに……」

父さん、怖い。そんなのゲームにしかないから。大体

「実はお父さん、あたし付き合つてる彼がいるの」

から。残念、父さん。

「なんだとう！！！お父さんはそんなやつにお義父さんと呼ばれたくない！！！」

「そんな……ひどいよう、お義父さん」

「アレ、発音ちがくね？娘よ、なんか発音が違うぞ」

だつてそうじゃん。妹は引き取つて育てたんだから、父と血は繋がつてないよ。あんた

「それとあなた、タバコ。マッチで火をつけてね」

「ああ、ありがとう、母さん……まったく、とんだ誤算、

……あれ、これつて」

「離婚届よ」

母さん、ひどいね。わざわざタバコのケースに入れて渡すつて。

俺ちよつと胸が痛んだよ。

「そ、そりゃあないよ母さん……なんで」

「ごめんなさいね、あなた。実はわたしずっと不倫してたの。その男ひととの子供が、あなたが『義妹だ義妹だ』と呼んでいたその子。最高でしょ？」

昼ドラ並みの展開。オタクの父さんの妄想の城が崩れていく。

「そんな……そんな……」

「まあいいじゃないの、頑張つて生きて次の夢に生きたら？どうせ夢だし」

え？つて顔してるね父さん。じゃあ、グッバイ

ドッキリ～

「夢オチかよ……ベタバタだな」

最後にドッキリ食らったのは、夢の中で「お父さん」を演じていた俺か？それともこれを読んでるあなた？

(後書き)

哀しきかなオタクの妄想。PCの前に座り込んで寝ていた眼鏡男を想像してください。

ドッキリ～

ドッキリ～

PDF小説ネット発足にあたって
PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7851b/>

ドッキリ～

2008年11月7日09時01分発行